Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

専攻医
募集

こどもからおとなまで
「大切な命を守り、県民に貢献する」病院

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターは、全国でも数少ない、
こども病院を併設した、大人とこどものための総合医療センターとして
全く新しい機能や役割を持った基幹病院として開院しました。
診療の特徴として、胎児期から成人までを対象とし、
あらゆる疾患に対応する事が可能な高度で多機能な病院です。

病床数は434床（小児病床108床）で、急性期病院として位置付けられています。

●基本方針

1. 県民と協働し、共感・共存できる公的医療を実践します。
2. 県民生活を守る救急医療を 365 日 24 時間提供します。
3. 病んでいるこども達の可能性を最大限に生かせるよう努力します。
4. 教育・研修病院として良き医療人を育成します。
5. 病状や治療方針について、平易な言葉で十分に説明し、納得がいく同意を得るよう努力します。
6. 病院ボランティアの受け入れを進んで行います。
7. 県民が誇れる、県民の病院として地域交流から国際交流まで進めていきます。
8. 沖縄県の基幹病院として職場環境に配慮し、健全経営に努めます。

診療の特徴として、こどもから大人までを継続して医療サービスを受ける事ができます。

●南部医療圏における救命救急医療

県都那覇市を含む南部医療圏（人口約72万人）はもちろん、沖縄県（一部鹿児島県）の離島からの症例についても救命救急センターで24時間365日、初期から3次のすべての救急患者（小児から高齢者まで・特殊疾患も含めて）に対応し治療に当たります。

●小児の専門診療（こども病院機能）

沖縄県全域と近接する県外の小児を対象とした、小児医療の最終病院として3次医療機能を有します。総合周産期母子医療センター、母体・胎児集中治療室（MFICU6床）、新生児集中治療室（30床）、および小児集中治療室（8床）を有し、先天性心疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、小児外科・小児形成外科・小児整形外科疾患など、専門医療を行う完結型のこども病院として、全県から紹介、搬送される重症児の管理を行います。また在宅医療や小児の成育・支援を含めた小児の総合診療を提供します。

●高度多機能病院

成人部門には、多岐にわたる専門性の高い疾患が集まります。そのゲートキーパーとしての総合診療機能を救命救急科と総合内科が担っています。また当院は、急性冠症候群、脳血管障害、多発外傷など内因系、外因系疾患に対応する集中治療室（ICU15床）を有し、高度医療を行います。また地域支援病院として、紹介、逆紹介を通じ、急性期・慢性期の病診連携を行います。

●精神身体合併症医療

総合病院の中に、県内では最初の合併症専用の精神科病棟（5床）を持ち、身体合併症のある精神疾患を内科、外科や他科と連携し治療を行います。

●離島、へき地医療支援

当院は8カ所の附属診療所のへき地医療拠点病院として、医療支援を行い、離島の人々の健康をサポートします。

幅広い職種に多くの女性職員が勤務する当院では、職員の子育てと仕事の両立を支援するため、院内保育所「みなみのこ保育園」を併設しております。（病児保育もあり）

大切な命を守り県民に貢献する

南部医療センター・こども医療センター院長
小濱　守安

当院は、沖縄県都那覇市に隣接した南風原町新川に位置し、那覇空港やモノレール、沖縄本島南北を縦断する沖縄自動車道からのアクセスの良い病院です。全国でも数少ない、こども病院を併設した大人とこどものための総合病院として 2006 年 4 月に開設されました。

こどもからおとなまで「大切な命を守り県民に貢献する」病院を理念として地域に愛される病院を目指してきました。当院の医療機能、役割として①沖縄県南部医療圏における救命救急医療、②高度多機能病院、③小児医療、④周産期医療、⑤精神身体合併症医療、⑥離島へき地医療支援、⑦臨床研修施設があげられます。

沖縄県の研修事業は戦後の混乱期の後、県立中部病院から始まっています。ハワイ大学と連携し、「屋根瓦方式」と呼ばれた実践的なプログラムにより数多くの医師を育成してきました。沖縄県には「県立病院群」、琉球大学医学部附属病院および市中病院を中心とした「群星沖縄群」、「RyuMIC 群」の 3 つの初期研修プログラムがあり、日本全国から初期研修医が集まってきています。救急医療を中心として充実した初期研修が実践され、2017 年に沖縄県の研修事業は 50 周年を迎えています。

当院は、専攻医研修プログラムとして内科、総合診療科、救急科、小児科、外科の 5 診療科の基幹病院プログラムがあります。どの診療科も軽症から重症まで、緊急性のある疾患から慢性疾患まで多数の症例を幅広く経験することができます。経験豊かな指導医から直接指導を受けられます。また、離島へき地の中核病院、離島診療所でも独り立ちできる医師を目指したプログラムが組まれています。琉球大学医学部附属病院、沖縄県立中部病院や他の中心的な病院とも連携を組みながら実践的な専攻医研修が受けられるようなプログラムとなっております。

他の診療科においても連携・関連病院としてのプログラムが多数あります。琉球大学医学部附属病院、沖縄県立中部病院などの基幹病院と連携し、当院の特徴である救急医療、小児医療、周産期医療、8 離島診療所での離島医療などが組み込まれたジェネラリストを育成するプログラムになっています。

沖縄県の伝統的な研修システムによる医師としての基本的な知識・手技の習得から新しい先進的な医療までを系統的に修練することができます。離島中核病院や離島診療所での研修も組み込まれた当院の専攻医プログラムに多くの若い医師が参集してくれることを期待します。

2019 年 5 月

基幹 専門医プログラムを持つ診療科

診療科	プログラム名	連携病院
内科	沖縄県立南部医療センター内科専門研修プログラム	・沖縄県立宮古病院・沖縄県立八重山病院 ・琉球大学医学部附属病院・沖縄県立中部病院
総合診療科	沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター総合診療後期研修プログラム	・沖縄県立北部病院・沖縄県立中部病院・沖縄県立宮古病院 ・沖縄県立八重山病院・沖縄県立病院附属離島診療所(16カ所)
救急科	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 救急科専門研修プログラム	・浦添総合病院・琉球大学医学部附属病院・沖縄県立中部病院 ・那覇市立病院・沖縄赤十字病院・大浜第一病院・沖縄協同病院 ・豊見城中央病院・南部徳洲会病院・中頭病院・ハートライフ病院 ・沖縄県立北部病院・沖縄県立宮古病院・沖縄県立八重山病院
小児科	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児科専門研修プログラム	・沖縄県立中部病院・沖縄県立北部病院・沖縄県立宮古病院 ・沖縄県立八重山病院・中部徳洲会病院・沖縄協同病院・千葉市立海浜病院
形成外科	沖縄県立病院群美ら島形成外科研修プログラム	・沖縄県立中部病院・沖縄県立北部病院・沖縄県立宮古病院 ・沖縄県立八重山病院・九州大学病院・医療法人こころ満足会　形成外科 KC
外科	沖縄県立病院外科専門研修プログラム	・沖縄県立中部病院・沖縄県立北部病院・沖縄県立宮古病院 ・沖縄県立八重山病院・中頭病院

連携・関連 専門医プログラムを持つ診療科

診療科	プログラム名		基幹病院
内科	琉球大学医学部附属病院内科専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
総合診療科	島医者養成プログラム		沖縄県立中部病院
	総合診療専門研修プログラム「うぷらうさぎ」		沖縄県立宮古病院
救急科	福岡大学病院 救急科専門 Professional 育成研修プログラム		福岡大学病院
	琉球大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
	沖縄県立中部病院救急科専門研修プログラム		沖縄県立中部病院
	浦添総合病院救急科専門研修プログラム		浦添総合病院
小児科	沖縄県立中部病院小児科専門研修プログラム		沖縄県立中部病院
	千葉市立海浜病院小児科専門研修プログラム		千葉市立海浜病院
産婦人科	琉球大学産婦人科研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
	沖縄県立中部病院産婦人科専門研修プログラム		沖縄県立中部病院
	豊見城中央病院産婦人科専門研修プログラム		豊見城中央病院
耳鼻咽喉科	ちゅらしま沖縄耳鼻咽喉科研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
皮膚科	琉球大学医学部皮膚科研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
※準連携施設　※皮膚外科医を目指すコースを選択した場合に限り 1 年間研修する。			
眼科	琉球大学眼科専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
整形外科	琉球大学整形外科専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
形成外科	福岡大学形成外科専門研修プログラム		福岡大学病院
精神科	沖縄県立病院群　精神科専門医研修プログラム「うりずん」		沖縄県立精和病院
脳神経外科	連携施設	脳神経外科専門研修九州大学医学研究院脳神経外科プログラム	九州大学大学院医学研究院脳神経外科
	関連施設	脳神経外科専門研修 琉球大学医学部プログラム	琉球大学医学部附属病院
		脳神経外科専門研修順天堂大学医学部プログラム	順天堂大学医学部附属順天堂医院
		脳神経外科専門研修岐阜大学医学部プログラム	岐阜大学医学部附属病院
放射線科	おきなわ放射線科専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
麻酔科	琉球大学麻酔科専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
病理診断科	沖縄病理専門研修プログラム		琉球大学医学部附属病院
	長崎大学病理専門医研修プログラム		長崎大学病院病理診断科・病理部

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

小児科

[Pediatrics]

知識を共有し高め合える環境

福岡 弘望

Hiromi Fukuoka

当院の小児科後期研修は、3年のプログラムのうち始めの2年間は当院で、最後の1年間は離島・北部病院での研修です。当院は一次医療から三次医療、新生児医療や先天性心疾患・内分泌疾患など、重症度も疾患もさまざまで、専門スタッフのフィードバックのもと幅広く経験できることが特徴です。2年間で得た経験を生かし、3年目の地域医療で実践するという研修の流れが明確にされています。

またスタッフからのレクチャーのみならず、症例発表や研修医同士での勉強会の機会を設け、知識を共有し高め合える環境があることも魅力の一つだと思います。
研修中は忙しく辛い時もありますが、できること・わかることが増えるたびに少しずつ目指している小児科医に近づけていると実感しています。

ぜひ一度当院を見学していただき、一緒に働いてみませんか。

プログラム概要

当院の研修目標のうち、最も大きなものとして「離島で小児科医として独り立ちできる」があります。

その目標を達成するために、研修3年間のうち最初の2年間は当院で各系統疾患の初期診断、マネージメントについて学んでいただき、3年目に離島、あるいは沖縄本島の北部などで実際に診療していただく、というプログラムになっています。

当院には小児の各専門科があるので、専攻医は各科を2-3ヶ月単位でローテートしていただきます。離島で出会う頻度の高い疾患を念頭に、小児総合診療科と新生児科は1年目と2年目にそれぞれ3ヶ月ローテートするプログラムです。

その他専門性の高い領域として神経・精神、内分泌、腎臓、循環器、集中治療、血液腫瘍について、各科で学べるよう1-2ヶ月を単位にローテートしていただく予定です。

また、当院で専門医のいないアレルギーなどの疾患については選択制とし、連携病院で学んでいただくプログラムになっています。

連携病院一覧表（※1）

- 沖縄県立中部病院
- 沖縄県立北部病院
- 沖縄県立宮古病院
- 沖縄県立八重山病院
- 沖縄協同病院
- 千葉市立海浜病院
- 中部徳洲会病院

関連病院一覧表（※1）

- 沖縄中部療育センター
- 南部徳洲会病院

※関連病院を1ヶ月間選択することは相談可能

Message

指導医
中矢代　真美

こども医療センター部門は全国でも珍しい総合病院併設型のこどもの総合医療施設です。沖縄県は出生率が全国平均の2.4倍、16 歳未満の小児人口は日本一で、少子化が進む日本のなかでいまだに子供が多くいる数少ない地域です。

当院はそのような沖縄県における小児医療の最終病院として機能しています。総合周産期母子医療センター、県内唯一のPICUを持ち、県内の小児内科系・外科系疾患の高度専門医療を行います。全県の重症児を受け入れ管理する一方、小児の心身障がい児の在宅ケアの包括的支援や小児の心のケアまでを包括的に行なっています。今年から新たに感染症も加わりました。当院の小児部門では専攻医も含めて小児科医41名が常勤するほか小児心臓血管外科、小児外科などの小児の外科部門も充実しています。

特に救急室においては全国で9番目の小児救急救命センターを持ち、一次から3次までを受け入れる24 時間稼働の救急医療を提供しています。年間救急受診数約34000人あり、そのうち小児は約20000人を占めます。救急室では上気道炎など多くの一次救急の診療を行いながら、同時に最重症の小児患者の受け入れを行っています。

当院の研修医は救急室で多くの小児救急患者の初療を自ら第一線で担当します。上気道炎や気管支喘息、熱性けいれんなどのcommonな疾患に対するスタンダードなアプローチ、家族への対応などを学びます。また稀な感染症、虐待、在宅医療を要するこどもの急変などにも関わります。呼吸不全やショックなどの患者がいれば救急室に降りて来たPICU医師から指導を受けながらいっしょに蘇生に関わります。先天性心疾患、小児神経、小児血液腫瘍、小児腎疾患、小児内分泌など専門的な治療を要する疾患も各専科がいるので自分で救急室で診療したこどもがその後専科でどのようにフォローされていくかを連続的に学ぶことまで可能です。

当院は新専門医制度に対応した小児科専門研修プログラムの基幹病院であり、2年間基幹病院で研修後3年目は離島で独り立ちして診療できる力をつけることを目指します。論文指導もしっかり行っています。小児科専門医をめざす方ばかりでなく、当院は家庭医をめざす方、離島診療をめざす方、救急医のなかで小児科診察に力をつけたい方などのニーズにも十分対応できると自負しています。
明るい光、青く高い空、美しい珊瑚礁の島沖縄で一緒に小児医療を学びましょう！

小児科／カリキュラム

<table>
<tr><th></th><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">後期研修1年目</td><td colspan="12">沖縄県立南部医療センター・こども医療センター</td></tr>
<tr><td colspan="3">総合診療（3ヶ月）</td><td colspan="2">神経・精神（2ヶ月）</td><td colspan="2">内分泌・循環器（2ヶ月）</td><td colspan="3">NICU（3ヶ月）</td><td colspan="2">腎臓（2ヶ月）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期研修2年目</td><td colspan="3">沖縄県立南部医療センター・こども医療センター</td><td colspan="3">※1</td><td colspan="6">沖縄県立南部医療センター・こども医療センター</td></tr>
<tr><td colspan="3">総合診療（3ヶ月）</td><td>外来研修</td><td>院外研修</td><td colspan="2">血液・腫瘍（2ヶ月）</td><td colspan="3">NICU（3ヶ月）</td><td colspan="2">PICU（2ヶ月）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後期研修3年目</td><td colspan="12">沖縄県立宮古病院・沖縄県立北部病院・沖縄県立八重山病院より選択</td></tr>
<tr><td colspan="12">地域総合小児医療（1年間）</td></tr>
</table>

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

総合診療科

[General department]

ドラマのような研修が実在します

竹川 賢太郎

Kentaro Takekawa

「島医者養成コース」と聴くと伝わりやすいでしょうか。沖縄伝統の研修コースで、離島の診療所で研鑽を積み総合診療医(家庭医)として地域に溶け込んで働きます。沖縄のように離島診療所での研修ができるプログラムは少なく、全国から総合診療医を志す人が集まるのが沖縄医療の一つの特徴だと思います。

私は元々小児科医を志して海を渡りましたが、初期研修を通して沖縄医療を学ぶ内に少し遠回りして(あまり遠回りとは思っていない)、島医者経験を積んでから総合診療のできる小児科医になろうと思い描き、当院の後期研修を選びました。

島人の生活に最も近く寄り添う、とてもやりがいと人の温かみを感じることができる研修です。世界有数の僻地かつ地域医療最先端の沖縄で、皆さんをお待ちしています。

プログラム概要

プライマリ・ケアの研修を通して確かな医療倫理のもと患者中心・家族志向の医療、包括的で継続的な医療、地域のニーズに則した医療および保健・福祉へ協力できる医師の育成が目的です。沖縄県は離島県のため16の県立病院附属離島診療所があり一人医師として勤務されています。基本的にはこれら離島の診療に責任を持って携われる医師を育成するためのプログラムです。これに加え、この研修終了後には「離島医療」のみならず、総合診療専門医として日常遭遇する疾病や傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供し、地域に即した疾病の予防、介護、看取りなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み全人的な「総合診療医」「家庭医」になる事を目指します。

(1)地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、医療や健康に関わるその他の職種と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の分野の調整役としてもリーダーシップを発揮し、多様な医療サービス(在宅ケア、緩和ケア、高齢者ケア)を包括的に対応していく。
(2)総合診療部門においては、臓器別でない病棟診療(高齢者入院患者や心理・社会的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括的ケア、癌・非癌患者の緩和ケアなど)と臓器別ではない外来診療(複数の健康問題を持つ患者への包括的ケア)を提供する。また、内科系救急疾患にも積極的に関与する。

1. 本研修プログラムでは、①総合診療研修I(離島・僻地の診療所での外来・在宅・保健中心)、②総合診療専門研修II(病棟診療、内科系救急診療中心)、③内科、④小児科、⑤救急科の5つの必須診療科と整形外科および選択科で3年間の研修を行います。1.患者中心・家族志向の医療を提供する、2.包括的で継続的な医療を提供できるようになります。

2. 総合診療専門研修について
(1)研修の流れ:総合専門研修は、卒後3年目からの専門研修(後期研修)3年間で構成されます。
①後期1年次研修は領域別研修を中心とし、内科(6ヶ月)、小児科(3ヶ月)、整形外科(2ヶ月)、選択科(1ヶ月)を選択します。内科、小児科、整形外科の基本的急性期治療および検査を独立して行うことができ、複雑な問題に対してはすぐにコンサルトできることを目標とする。また、内科や小児科における慢性疾患に関してもフォローできるようにする。
②2年次および3年次研修は総合診療専門コースと救急科研修を行います。以下の(a)(b)コースを2年次もしくは3年次に研修します。

a.離島診療所研修コース:初期研修および後期1年次研修で培った臨床的技能を離島診療所研修(総合診療専門研修I)で発揮する。沖縄県立病院におけるプライマリ・ケアの醍醐味で有り、離島診療所医師として外来診療、一次救急診療、往診、産業医・学校医、地域保健指導への参画、住民の健康問題への関与に積極的に従事します。離島診療所研修コースでは、一人医師として診療所研修を行いますが、週1回のインターネット会議を利用して症例検討や問題点の把握と解決を行います。3ヶ月に1回は離島診療所での直接指導も行います。緊急な問題に関しても、救急センターと直接連絡が取れ、あらゆる相談にも24時間対応可能です。

b.病院研修コース:総合病院の内科系病棟において総合内科グループで臓器別でない症候・疾患・患者の心理社会的問題に対する入院ケアを中心に行い、総合内科の外来と入院治療をこなす総合診療専門研修IIを6ヶ月(その内3ヶ月を内科研修と兼ねる)行い、臓器別の内科研修3ヶ月、残りの3ヶ月をER型救急とICUケアを行うハイブリッド型救急研修を行います。

c.これら研修終了時には、多疾患合併で診断や治療に困難さや患者の心理・社会的問題などの複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供し、患者に指導することができる事を目標とします。

離島診療所一覧表（※1）

沖縄県立北部病院附属
伊平屋診療所、伊是名診療所

沖縄県立中部病院附属
津堅診療所

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター附属
粟国診療所、渡名喜診療所、渡嘉敷診療所、座間味診療所、阿嘉診療所、久高診療所、北大東診療所、南大東診療所

沖縄県立宮古病院附属
多良間診療所

沖縄県立八重山病院附属
波照間診療所、大原診療所、西部診療所、小浜診療所

Message

指導医
仲里　信彦

総合診療専門医は医師としての身体的疾病に対する治療のみではなく、倫理観や説明責任を持ちます。日々の診療にあたると同時に、自己研鑽を欠かさず、総合診療領域の発展に資するべく医学教育や学術活動にも積極的に携わる事が大切です。本研修終了後には、標準的な医療を安全に提供し、後進の教育にも貢献できる総合診療医になります。

私たちは熱い想いを持って、沖縄の離島診療および急性期総合病院研修を通じて総合診療医を育てていく事を目標としています。それに負けない熱い想いを持っている研修医のみなさん、また、何か物足りなさを感じている研修医のみなさん、楽しく研修し、働いてみませんか？

総合診療科／カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター											
	領域別必修研修 小児科（3ヶ月）			領域別必修研修 内科（6ヶ月）						※2　総合診療専門研修Ⅱ		
後期研修2年目	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター											
	領域別必修研修 救急科（3ヶ月）			領域別必修研修 内科（6ヶ月）						※3　総合診療専門研修Ⅱ		
後期研修3年目	※1　沖縄県立病院附属離島診療所											
	総合診療専門研修Ⅰ											

※2　整形外科と皮膚科関連を中心に研修を行います。
※3　総合内科を中心に研修を行います。

内科

[Internal medicine]

目標へ一歩ずつ近づく確信を持って

近藤 和伸

Kazunobu Kondo

私は、将来開業医として地域医療に貢献し、様々な疾患の管理や地域住民の健康管理を外来で行える医師を目指しています。この目標を達成するには、多くの症例と出会い入院から退院、そして外来へと急性期から慢性期まで疾患のクリニカルコースを経験することが重要だと考えています。

私は当院で2年間の初期研修を履修し、後期研修先も当院に決めた理由は大きく3つあります。

1つめは、当院が沖縄本島南部地区の基幹病院であり軽傷から重傷まで様々な症例が経験できること。2つめは、指導医、上級医の先生方が経験豊富なジェネラリストであること。3つめは、指導医、上級医の先生方が親、兄弟のように親身になって相談に乗ってくださることがあげられます。

当院で医師として研修を開始し4年が経ちますが、目標へ一歩ずつですが近づいていると確信しています。

最後になりますが、当院で内科後期研修を考えているあなたと一緒に楽しく、切磋琢磨しながら働ける日を楽しみにしております。

プログラム概要

当院は平成18年4月に開院した沖縄県の基幹病院で、こども病院機能を併設した総合病院です。那覇南部地区約70万人の地域に立地し、救命救急センターを持ちながらも、1次から3次まで幅広く救急疾患に対応し、さらに小児救命救急センター、総合周産期母子医療センターと共に、沖縄県全域の小児、周産期医療を支えています。また、県立附属の16診療所中、8診療所は当院の附属診療所であり、離島中核病院(宮古、八重山、北部)と同様に診療連携と支援を行っています。さらに、身体合併症のある精神科患者を受け入れる精神病棟も備え、さらには歯科口腔外科で専門性の高い歯科治療を行うなど多機能病院で、各科垣根なくコンサルトできる体制であり、幅広い知識を身につけ、全人的医療が可能になります。

さて、内科専攻医には、上記の機能を有する当院での研修は有意義であると信じています。研修期間の3年間で内科専門医を獲得することを目指します。具体的に言えば、A案の場合、前半1年間は、呼吸、循環、消化器、神経、血液、総合内科、腎臓を2ヶ月ごとにローテーション、さらに週1回は沖縄県立中部病院の感染症専門医であるコンサルタントより指導を受けることもできます。

当院内科は特色ある専門医療を提供できるよう各専門内科が設けられていますが、中でも内科疾患への対応は、包括的な観点をもって対応する必要があり、特に総合内科は、多種の症候と疾病に対し、より広い観点で病態を見渡せる診療科として、内科領域のプライマリケアの中心的役割を担っております。

実際には、右記の3案の中から、スタッフと相談してローテーションを決めます。連携病院は、離島中核病院である宮古病院、八重山病院、そして基幹病院である琉球大学医学部附属病院(短期研修)です。

連携病院一覧表（※1）

・沖縄県立宮古病院
・沖縄県立八重山病院
・琉球大学医学部附属病院
・沖縄県立中部病院

Message

指導医
林　成峰

「離島中核病院等で有用とされ、内科的問題をおおよそ独力で診療できる能力を身につけること」を目標としています。これは、地域でかかりつけ医としての役割、救急診療への対応、病院での総合内科医として、あるいはサブスペシャリストを目指す総合内科的視点をもった医師を意味しています。医師としての若い時代には専門分野のみに偏狭にならず、幅広く種々の課題に向き合い、診療を通して、地域を背景とした課題にも目を向け、解決する姿勢を身に着けて欲しいのです。内科を専門として学ぶことの出発点を沖縄の地域で学ぶことは、その後研究分野に進むとしても、有意義であります。ぜひ、この地で学んで欲しいと願います。

内科／カリキュラム

A案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目	総合内科		循環器内科		呼吸器内科		消化器内科		血液内科		腎リウマチ科	
後期研修2年目	※1 連携病院研修											
後期研修3年目	希望subspecialtyまたは研修の不足した科をローテーションする											

B案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目	総合内科			循環器内科			呼吸器内科			消化器内科		
後期研修2年目	血液内科			腎リウマチ科			※1 連携病院研修					
後期研修3年目	※1 連携病院研修						希望subspecialtyまたは 研修の不足した科をローテーションする					

C案	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目	総合内科			循環器内科			呼吸器内科			消化器内科		
後期研修2年目	血液内科			腎リウマチ科			希望科研修					
後期研修3年目	希望科研修（研修終了）											
後期研修4年目	※1 連携病院で1年間勤務											

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

救急科

[Emergency department]

断るという選択肢がない環境に身を置いて

桜井 博志

Hiroshi Sakurai

初期研修の2年間を過ごした東京の市中病院は、救急車の受け入れも多かったのですが、重症多発外傷などには対応しておらず、また、すべての受け入れ要請に応需していた訳ではありませんでした。救命救急を選ぶ以上は、断るという選択肢がない環境に身を置きたいと考え、当院での専攻研修を選択しました。

今は専攻医として、自らが診療にあたることはもちろん、上級医や各職種の協力を仰ぎながら、救急の業務を円滑に運営するということにも取り組んでいます。また当科はERでの業務以外にも、集中治療・救急科として、入院患者も受け入れているので、初期対応から社会復帰まで継続してみられることも大きな魅力です。

救命はもちろん、院内の各専科や地域の医療機関との繋がりを意識しながら、救命救急センターを訪れるすべての患者さんの思いを汲み取れる専門医を目指しています。この素晴らしい環境で、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

プログラム概要

【スタッフ／後期研修医】

2019年度　スタッフ10名／専攻医2名（5年次2名）

救急科指導医1名、救急科専門医9名、集中治療専門医2名、整形外科専門医1名、外科専門医2名（重複あり）

【当科の特徴】

①当院は3次救命救急センターであり、地域の緊急重症症例を多数受け入れています。当科でER・ICU・一般病棟のすべてを網羅しているため、初期診療から集中治療の急性期管理とその後の管理まで、様々の症例を経験できます。

②重症外傷の搬送数は年々増加しています。多くの外傷症例を、初療→IVR→ICU入室といった一連の流れで診療を行い、一般病棟での管理まで一貫して主担当医として経験することができます。

③チーム制で症例を担当しているため、ON-OFFのハッキリした勤務体系です。

④小児のファーストタッチも救急医が行います。小児のCommon diseaseやマイナーエマージェンシー、また、重症も含めて、小児救急症例を豊富に経験できます。

⑤自衛隊ヘリコプターによる離島搬送の添乗や、海上保安庁による洋上救急に出動します。

【救急科専門研修プログラム（他科・他施設選択／ローテーション）】

日本救急医学会救急科専門医を取得することを目指し、救急専従期間を考慮した研修となるよう各人にあわせて調整可能なプログラムを作成しています。

例えば半年間は救急科に所属し、残りの半年間は希望に応じて、各専門科、連携施設へのローテーション研修をすることができます。

連携施設一覧表（※2）

- 社会医療法人仁愛会 浦添総合病院
- 琉球大学医学部附属病院
- 沖縄県立中部病院
- 地方独立行政法人　那覇市立病院
- 沖縄赤十字病院
- 医療法人おもと会 大浜第一病院
- 沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
- 社会医療法人友愛会 豊見城中央病院
- 医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
- 社会医療法人敬愛会 中頭病院
- 社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院
- 沖縄県立北部病院
- 沖縄県立宮古病院
- 沖縄県立八重山病院

Message

指導医
梅村　武寛

当救命救急センターは、幅広い症例（新生児から高齢者、軽症から最重症、中毒・精神科救急等の特殊疾患）を受け入れる日本最南端に位置する3次医療施設です。受入れ・搬送形態もwalk inから救急搬送、Dr.ヘリ搬送まで様々です。当施設での研修の利点は、たくさんの症例を分け隔てなく、ともかくたくさん経験できることだと思います。

ここ沖縄は、沖縄県立中部病院によって練り上げられたER型救急を早くから始め、それを継続している地域です。ただし、ER方式だけの研修では、沖縄県内ではともかく沖縄県外のER方式が定着していない施設において救急医としてのidentityを示すことが困難な状況も考えられます。そこで現在、ER方式で行う救急外来で小児から成人、1次から3次救急、walk-inから救急搬送の患者まで幅広い症例の初療を担当しつつ、その後の決定的な治療にも加担し、集中治療も担う施設を目指し運営しています。

ERにおいては、こども医療センターであることから小児の受診者が多く、小児科と協力して診療にあたり、小児救急の症例も豊富に経験できることは他施設にない大きな特徴です。基本的に全勤務帯を通して、一部の小児科・産科患者を除いて当科でほぼすべてを初期対応しています。

加えて、重症患者の初期診療は当科が中心となって行い、必要に応じて専門科へ橋渡しを行っています。特に多発外傷、敗血症性ショックなどの重症症例や中毒、心肺停止蘇生後などの特殊救急疾患の入院治療は当科が主治医となって担当し、集中治療を行いつつ必要に応じて専門科と連携して治療にあたっています。救急科専従中、専攻医はER、ICU、一般病棟、各々を一定期間集中的に研修します。病棟では十数名の患者を担当し、その中で治療方針の策定から、回診、リハビリ指示、退院調整等までをチームの中心的存在として行ってもらいます。勤務扱いでのBLS、ACLS、JPTEC、JATECなど救急集中治療に必要な研修コースを受講することも積極的に行っています。3年間で日本救急医学会救急科専門医を取得することを目指しており、救急専従期間を考慮した研修となるよう各人にあわせて調整可能です。当施設での初期研修はERを中心とした、ある意味たくさんの経験を積むことを重視したものであります。専攻医研修では、それに加えてICU管理を中心とした全身管理の基礎と各専門科での決定的治療を経験することを重視して研修してもらいます。一つの症例（重症例に限らず）を病態から深く掘り下げ、入院から退院・社会復帰まで、つまり入口から出口までをmanagementすることを学びます。ぜひとも南の島で我々と救急医を目指すべく研修してみませんか。

救急科／カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目	南部医療センター											
	救急診療+集中診療（12ヶ月）											
後期研修2年目	浦添総合病院						※1より選択					
	集中治療+ドクターカーOJT（6ヶ月）						地域救急診療（3ヶ月）			地域救急診療（3ヶ月）		
後期研修3年目	当院及び連携施設（※2）より選択											
	救急診療+集中診療（6ヶ月）						※3　救急診療（+リサーチ）（6ヶ月）					

※1　【那覇市立病院】【社会医療法人敬愛会　中頭病院】【沖縄赤十字病院】【社会医療法人かりゆし会　ハートライフ病院】【医療法人おもと会　大浜第一病院】
【沖縄県立北部病院】【沖縄協同病院】【沖縄県立宮古病院】【社会医療法人友愛会　豊見城中央病院】【沖縄県立八重山病院】【医療法人沖縄徳洲会　南部徳洲会病院】
※2年目と3年目のプログラムは相談の上変更可能です。　※3 リサーチ選択の場合は、琉球大学院を選択

外科

[Surgery]

毎日忙しいけど、充実した日々を実感

安森 研

Ken Yasumori

当院外科は、沖縄における離島での職務を念頭に置いたプログラムであるためgeneral surgeryが特徴です。そのため、豊富な症例数、多彩な疾患・術式、経験豊富な上級医がおり毎日忙しくもありますが、充実した日々を過ごしています。

また、当院のプログラムはgeneral surgeryだけでなくサブスペシャリティも連動して取得することも可能なため、まずは外科の基本を作って専門分野に進んでみてはいかがでしょうか。

その他にも沖縄県立南部医療センター、沖縄県の魅力をお伝えできるかと思います。是非一度見学に来てください。

プログラム概要

外科専門医は初期臨床研修修了後、3年間の専門研修で育成されます。

⇒　3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6カ月以上の研修を行います。

⇒　本プログラムでは3年間の専門研修終了後に、大学院へ進むことも可能です（琉球大学等と連携）。しかし、原則的に3年間の専門研修期間中は、臨床医としての外科修練に集中することとなります。

沖縄県立病院外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

（1）専攻医が医師として必要な基本的診療能力および外科領域の専門的診療能力を習得すること

（2）上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること

（3）外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること

（4）外科領域全般からサブスペシャルティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺や内分泌領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

（5）沖縄県の地理的、歴史的背景に基づき、離島および僻地医療を支える外科専門医をこれまでどおり継続的に育成すること

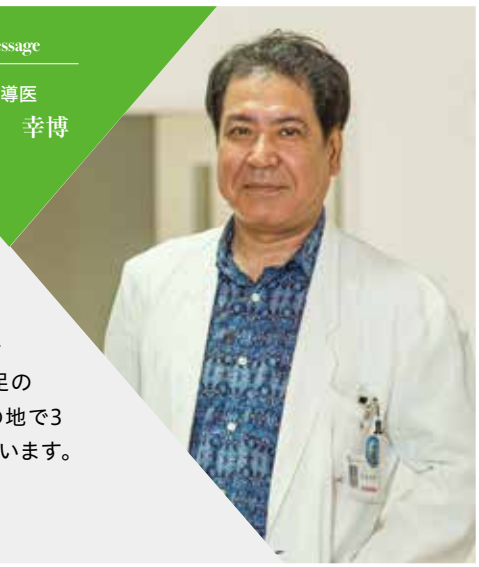
連携病院一覧表

・沖縄県立中部病院
・沖縄県立北部病院※
・沖縄県立宮古病院※
・沖縄県立八重山病院※

※離島中核病院

Message

指導医
奥濱　幸博



当院は、平成30年（2018）4月より開始します新専門医制度における沖縄県立病院外科専門研修プログラム（県立病院5施設）の中で中心的な役割を果たす専門研修基幹施設となっております。

当院では、外科専門医としての医の倫理を体得するとともに、診断、手術適応判断、手術及び術前後の管理・処置、合併症対策など、一般外科医療に関する標準的かつ包括的な外科医療を習得し、プロフェッショナルとしての態度を身に着けることが可能であります。

本院は沖縄県における南部医療圏の中核病院であり、救急医療～一般的医療まで幅広く外科の基礎的臨床能力を身につける機会が豊富にあり、専攻医の皆様には満足のいく研修を提供できるものと確信しております。これから専攻医となる皆さん、沖縄の地で3年間の充実した外科専門研修を受けてみませんか！向上心のある皆さんをお待ちしています。

外科／カリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期研修1年目	沖縄県立中部病院（12ヶ月）											
	外科専門医研修											
後期研修2年目	沖縄県立中部病院（6ヶ月）						沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（6ヶ月）					
	外科専門医研修											
後期研修3年目	離島中核病院もしくは沖縄県立南部医療センター・こども医療センター											
	外科専門医研修/サブスペシャリティ領域など専門医研修											

●4年次以降の進路（到達度に応じる）

・沖縄県立中部病院及び南部医療センター・こども医療センターでのサブスペシャリティ研修　・沖縄県離島中核病院での一般外科修練の継続　・大学院への進学

Okinawa Prefectural Nanbu Medical Center & Children's Medical Center

形成外科

[Plastic surgery]

自身の将来像を模索する貴重な期間

三輪 志織

Shiori Miwa

当院の形成外科研修の魅力は、豊富な症例経験と手厚い指導体制にあります。形成外科は分野が幅広く、病院ごとに症例が偏りがちですが、当院の特徴を反映し、小児の先天奇形から外傷（手外科含む）、再建までまんべんなく症例を経験することが可能です。私自身、現時点で小児症例経験数は圧倒的に多いと自負しています。また、比較的他科との合同手術の多い当科ですが、市中病院ならではの診療科間の垣根の低さも魅力であると感じています。指導医は経験豊富で何でもこなし、なにより研修医指導がライフワークいう熱い先生です。形成外科の基礎を徹底的にたたきこんでいただきました。個性にあふれた尊敬すべき先生方に出会えたことも当院での研修を選んでよかったと思うことの1つです。後期研修は形成外科の基礎を身に着け、自身の将来像を模索する貴重な期間です。その貴重な3年間を、美しい沖縄の地で過ごしてみてはいかがでしょうか。

形成外科／カリキュラム

●南部医療センター・こども医療センタースタート・重点コース

	プラン Ⅰ	プラン Ⅱ	プラン Ⅲ	プラン Ⅳ	プラン Ⅴ
後期研修1年目	南部医療センター・こども医療センター				
後期研修2年目	南部医療センター・こども医療センター		中部病院・地域医療（※1）		
後期研修3年目	南部医療センター・こども医療センター	中部病院・地域医療（※1）	南部医療センター・こども医療センター	連携施設（※2）	南部医療センター・こども医療センター
後期研修4年目	中部病院	南部医療センター・こども医療センター			連携施設（※2）

●中部病院スタートコース（例）

	プラン Ⅰ	プラン Ⅱ	プラン Ⅲ
後期研修1年目	中部病院		
後期研修2年目	中部病院		中部病院・地域医療（※1）
後期研修3年目	中部病院	南部医療センター・こども医療センター	連携施設（※2）
後期研修4年目	中部病院・地域医療（※1） 南部医療センター・こども医療センター	中部病院・地域医療（※1） 連携施設（※2）	連携施設（※2） 南部医療センター・こども医療センター

※1　地域研修のため宮古、八重山、北部、中部の各県立病院で基幹病院研修期間または中部病院研修期間中に3か月間のローテーションが組み込まれます。
形成外科ＫＣでの美容外科、形成外科小手術症例の研修については、1～6か月間の短期研修を研修1～4年次にいずれかの時期に組み込むことが可能です。
※3　その他、九州大学病院スタートコースもあります。

地域医療研修施設一覧表（※1）

・沖縄県立宮古病院
・沖縄県立八重山病院
・沖縄県立北部病院
・沖縄県立中部病院

連携施設一覧表（※2）

・沖縄県立中部病院
・九州大学病院形成外科
・（医）こころ満足会形成外科KC

Message

指導医
石田　有宏

沖縄県立中部病院で一般外科を4年研修しその後八重山病院で外科医師として3年、合計7年外科診療を行いほぼ全ての外科手術を経験してから8年目から形成外科医を目指しアメリカに渡って2年間形成外科の臨床研修を行いまた中部病院に戻ってきました。形成外科もほぼ全ての手術を経験し、2019年度から南部医療センター・こども医療センター勤務になりましたが現在は顔面の骨切り手術と唇裂の一次手術、二次修正手術に特化した診療をしています。色々と回り道をしてきましたがどんな回り道も決して無駄になったものはありません。回り道を色々することで人生経験も深まります。人生もっと回り道を楽しんでみるのも良いのではと思います。

Message

指導医
西関　修

離島を抱えた遠隔地である沖縄県においては地域完結型医療が必要とされます。当科では限られた医療資源のなかであっても、一例一例を大切に、グローバルスタンダードを意識した医療の提供を目指しています。必然的に各個人の能力が最大限に発揮される必要があり、少数精鋭を意識することとなります。また当プログラムで学ぶ専攻医には学習者であると同時に、教育者としての視点も養うことを薦めています。学んだことや考えを伝える力を養うことは自身の学びを確実なものとし、生涯学習のコアとなることでしょう。形成外科は扱う部位、年齢層ともに多岐にわたることもあり、指導医といえども時に困難な症例に対しては学習者となります。ともに切磋琢磨し合う環境に身を置いてみませんか。

プログラム概要

形成外科では初期研修終了後、4年間の専門研修が必要です。サブスペシャルティへの道も広く開かれていますが、地域完結型医療が求められる沖縄では、常にジェネラリストとスペシャリストとしての視点の両立が求められます。

形成外科の対象とする体の部位、患者さんの年齢は多岐にわたり、他科とのコラボレーションの機会も多くあることから、このマインドは研修のコアとなります。幅広いジェネラリストとしての研修は「熟達した形成外科」となるための「足腰」となり、将来のサブスペシャリティーへの基礎固めとしても重要です。

こども病院機能を併設した総合病院である当院は沖縄県の基幹病院であり、形成外科におけるほぼ全ての分野をまんべんなく経験できる機会があります。全研修期間を通じてGeneral Plastic Surgeonを目指した「広く、深い」学びを提供します。県立病院群を基本とした連携施設もそれぞれの地域での中核病院であり、プログラムスケジュールのようなアレンジを行うことで、より一層充実した研修が可能となります。

新専門医制度 専門研修基幹施設

01. 内科専門研修基幹施設
02. 外科専門研修基幹施設
03. 救急科専門研修基幹施設
04. 小児科専門研修基幹施設
05. 総合診療科専門研修基幹施設
06. 形成外科専門研修基幹施設

認定医療機関

01. 日本医療機能評価機構認定病院　3rd G .Ver1.0
02. 総合周産期母子医療センター
03. 地域医療支援病院

指定医療機関

01. 保険医療機関
02. 更生医療指定医療機関
03. 労災指定病院
04. 生保、児童、身体障害者福祉等各法指定病院
05. 結核予防法指定病院
06. 原爆医療指定病院
07. 看護教育実習指定病院
08. エイズ医療拠点病院
09. 災害拠点病院
10. 第一種・第二種感染症指定医療機関
11. へき地医療拠点病院
12. 臨床研修指定病院
13. 被爆者一般疾病医療機関
14. 救命救急センター
15. 特定疾患治療研究事業委託医療機関
16. 難病指定医療機関
17. 指定小児慢性特定疾病医療機関
18. 小児救命救急センター

学会認定施設

01. 日本内科学会認定教育病院
02. 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム（ver.2.0）
03. 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
04. 日本消化器病学会専門医認定施設
05. 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
06. 日本呼吸器学会認定施設
07. 日本内分泌学会認定教育施設
08. 日本小児科学会認定小児科専門医研修施設
09. 日本小児科学会認定小児科専門医研修支援施設
10. 日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設
11. 日本小児外科学会専門医認定施設
12. 日本小児神経学会専門医研修施設
13. 日本産科婦人科学会専攻医指導施設
14. 日本産婦人科学会専門研修連携施設
15. 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
16. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）暫定認定施設
17. 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）暫定認定施設
18. 日本腎臓学会認定専門医研修施設
19. 日本神経学会専門医制度准教育施設
20. 日本精神神経学会精神科専門医研修施設
21. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設
22. 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
23. 日本外科学会外科専門医制度修練施設
24. 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
25. 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
26. 日本呼吸器外科学会専門医関連施設
27. 日本眼科学会専門医制度研修施設
28. 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
29. 日本整形外科学会専門医制度認定研修施設
30. 日本形成外科学会認定施設
31. 日本透析医学会認定医制度教育関連施設
32. 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
33. 日本臨床細胞学会認定教育研修施設
34. 日本臨床細胞学会認定施設
35. 日本臨床神経生理学会認定施設
36. 日本病理学会病理専門医研修登録施設
37. 認定輸血検査技師制度協議会認定指定施設
38. 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設
39. 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設
40. 関連10学会構成　胸部ステントグラフト実施施設
41. 関連10学会構成　腹部ステントグラフト実施施設
42. 浅大腿動脈ステンドグラフト実施施設
43. 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
44. 日本救急医学会救急科専門医指定施設
45. 日本高血圧学会専門医認定施設
46. 日本がん治療認定医機構認定研修施設
47. 日本血液学会認定血液研修施設
48. 日本脈管学会認定研修関連施設
49. 日本感染症学会認定研修施設
50. 日本口腔外科学会専門医准研修施設
51. 日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設
52. 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
53. 植込型補助人工心臓治療関連学会協議会認定植込型補助人工心臓実施施設
54. 日本集中治療医学会専門研修施設　集中治療室（ICU）
55. 日本集中治療医学会専門研修施設　小児集中治療室（PICU）

当院の概要

平成30年4月1日現在

名　　称／沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
所　在　地／〒901-1193 沖縄県南風原町字新川118番地1
開　設　者／沖縄県知事
開設年月日／平成18年4月1日
病　院　長／小濱　守安
敷 地 面 積／57,278.52㎡
建　　物／鉄骨・鉄筋コンクリート造
（建物延床面積 36,571㎡）
建 築 面 積／12,436㎡

病　床　数／434床（一般 423床・精神 5床・感染 6床）
職　員　数／1,151人（診療所を除く）
医師 188人／看護部 675人／その他 288人
附属診療所／（稼働数）8（8）
総合病院承認／昭和59年5月1日
救急告示施設／平成18年4月1日
人 工 透 析／昭和63年6月1日

当院の診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、気管食道外科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神科、リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科、腎臓内科、血液・腫瘍内科、感染症内科、糖尿病・代謝内科、乳腺外科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、小児腎臓内科、小児神経内科、小児血液・腫瘍内科、小児内分泌・代謝内科、小児脳神経外科、小児整形外科、小児形成外科、小児精神科、小児泌尿器科、小児眼科、小児耳鼻咽喉科、新生児内科、小児放射線科、小児麻酔科

専攻医募集要項

●募 集 定 員：各科で異なるため、下記連絡先へお問い合わせ下さい。
●選 考 方 法：書類審査及び面接
●提 出 書 類：履歴書（指定様式有）、医師免許証（写し）
●見 学 期 間 ：随時

＊見学は随時受け付けしております。
詳細はホームページをご参照ください。

処　遇

●身　　分：会計年度任用職員
●給　　与：基本給 344,160円～384,244円
●手　　当
時間外手当：46,000円/回～51,000円/回
（15.5H当直勤務した場合）
休日勤務手当、退職手当、期末手当
※要件該当時のみ支給
●有 給 休 暇：年間10日（1年目）～14日（4年目）
●社 会 保 険：健康保険、厚生年金保険、雇用保険、
労働者災害補償保険(採用1年目)、
地方公務員災害補償保険(採用2年目)

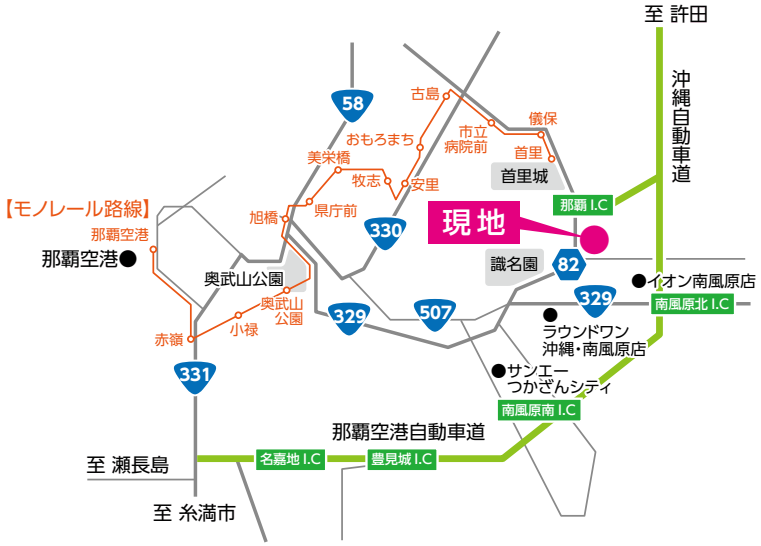
見学の申込み先

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
卒後臨床研修センター

メールアドレス
nanbu_pgmec@hosp.pref.okinawa.jp

（見学の2週間前までにメールにてお申込みください。）

アクセス



■ 那覇空港駅

モノレール（ゆいレール）／27分 …330円

■ 首里駅

徒 歩／1分

■ 首里駅前バス停

1番 首里牧志線（那覇バス）
14番 牧志開南循環線（那覇バス）

バ ス／ 所要時間は、道路事情により異なります。 …230円

■ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

お問い合わせ

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター内

卒後臨床研修センター

TEL：098-888-0123　FAX：098-888-6400

〒901-1193 沖縄県南風原町字新川118-1

mail：nanbu_pgmec@hosp.pref.okinawa.jp

● 申込み先
メールアドレス
QRコード

● 研修医募集
ホームページの
QRコード